

釧路市教育委員会 令和7年第20回10月定例会会議録

1 日時：令和7年10月28日（火）13時30分から14時20分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、竹内スポーツ課長、鈴木動物園長、北村阿寒教育事務所長、長谷地音別教育事務所長

4 議事録署名人 靱山委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- （1）令和7年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について
- （2）学力向上協議の結果について
- （3）釧路市PTA連合会への補助金交付決定について
- （4）学びの多様化学校保護者説明会の実施報告及び入学・転入学に向けてのスケジュールについて
- （5）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 令和7年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について

(司口学校教育部長)

報告事項1、令和7年度「学校・家庭・地域と共に考える教育懇談会」の開催について報告する。

例年実施している教育懇談会について、令和7年11月5日水曜日、午後3時から生涯学習センター8階の特別会議室にて開催する。今年度は「ふるさとキャリア教育の推進」及び「学びの多様化学校について」を開催テーマとして、関係団体の代表者に参加いただき、意見交換を行いたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(2) 学力向上協議の結果について

(齊藤総括指導主事)

報告事項2、学力向上協議の結果について報告する。

この学力向上協議は、本市の課題である学力向上について、各学校が主体的に学力向上改善策に取り組む意識を高めることと、教育委員会として有効な手立てについて指導助言することを目的に、全小・中学校ならびに義務教育学校の管理職や学力向上担当教諭と、各学校が作成した「学力向上プラン」を基に協議を行っているものである。今年度も昨年同様、本川教育指導参事、学力向上担当指導主事で実施した。その協議の中で、成果が上がっている学校の特徴、また課題のある学校の傾向について、説明させていただく。

成果が上がっている学校に共通していることは、資料に示した3点が挙げられる。1点目は、校長をはじめとする管理職のリーダーシップのもと、全教職員が一丸となって学力向上に取り組む体制が構築されている点である。具体的には、「学校長の理念が教職員に浸透している」と評される学校があるように、管理職が明確な方針を示すことで、教職員が共通の目標に向かって取り組む一体感が生まれている。管理職が日常的に授業を観察し、教員と対話する機会を設けていたり、研修だよりで取組を発信し、全校で足並みを揃えたりすることで、学校全体の組織力向上につながっている。

2点目は、学力調査等のデータ分析に基づき、学校や学級の課題を明確にし、具体的な手立てを講じている点である。成果が上がっている学校は、課題を抱える児童生徒に対して効果的な支援を行っている。例えば、困り感の強い児童生徒リストを作成し、少人数の持ち方を変更するといった対策が実施されている。また、ある学校では主幹教諭がデータを集約・

分析し、それに基づいて別の教諭が問題を作成するというように、組織的かつ計画的に課題解決にあたっている。このように、分析結果から課題を的確に捉え、対象を絞った実効性のある取組を行っている点が共通している。

3点目は、教職員間の自発的な対話や実践の共有を通じ、組織として授業改善に取り組む協力的な文化が醸成されている点である。これらの学校では管理職からの指示だけでなく、教職員同士が日ごろから協力し合う関係が築かれている。職員室で授業後の話が自然に起きているという状況はその象徴である。また、教職員の前向きな姿勢が他の教職員へ波及効果を生んでいると分析されている例もみられる。このように教職員一人一人が当事者意識を持ち、互いに高めあう校内の雰囲気教育活動全体の質の向上を支えている。

一方、課題のみられた学校の傾向については、教職員間の連携体制に課題が見られる。具体的には、教職員が一丸となっている感覚が低い、先生によって指導の温度差があるなど、学校全体で協働して課題解決にあたる体制が十分に機能していない状況が見られる。また、取組が成果に結びついていない点も共通しており、課題の部分に対して子どもたちへ手立てを講じていない、やらせっぱなしの状態が報告されている。

学校指導係としては、これらの課題を踏まえ、特に課題の見られる学校に対しては、校長のリーダーシップのもと、全教職員が当事者意識をもてるよう指導していく。そのため、特に中学校でみられる、国語・数学だけの問題だと認識しているといった意識を改め、他の教科も含め、全教職員が、学力向上に係る意識の醸成を行っていく必要性について、管理職を通じ、強く働きかけていく必要がある。また、形骸化した取組を見直し、分析に基づいた実効性のある手立てを講じるとともに、その結果を検証し、次の改善に繋げるPDCAサイクルを確立させることが急務である。成果を上げている学校の事例も参考にしながら、複数回の学校訪問等を通して、全国学力・学習状況調査の分析結果から見えた課題に対し、個々の児童生徒のつまずきに対応し、学校組織としてどのように働きかけているのかを確認し、具体的な改善が進むよう指導・助言を継続してまいりたい。

従来から継続している、指導主事による複数回の学校訪問や、指導主事と釧路市授業マイスターによる示範授業に加え、各学校へは授業と連動した、家庭学習の習慣化を目的とした宿題の工夫や、タブレットドリルを効果的な活用する事例についても、再度、指導・助言を徹底してまいりたい。示範授業については、「釧路市が目指す授業」の具体を示し、児童生徒の実態の捉え方や、対応の仕方を周知し、一人一人の子供が楽しく学び、思考力を鍛える授業改善を促す。加えて、児童生徒への直接的な支援として、10月より新たに「中学校数学放課後オンライン学習会」を開始した。これは、数学に苦手意識を持つ生徒を対象に、指導主事がオンラインで補充的な学習指導を行うものである。10月3日に実施した第1回には、特に学習に課題を抱える生徒の参加を重点的に促す中で、全中学校から約150名の申込みがあるなど、関心の高さがうかがえた。チャット機能を活用した双方向のやり取りや、オンデマンドでの視聴も可能としており、学習会で取り組んだ内容を各学校の先生方に家庭学習として提出し、丸付けや個別指導をお願いするなど、学校と連携して学習内容の定着と意欲の向上を図ってまいりたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

機会があれば、各学校の校長、教頭に伝えてほしいのだが、学校の管理職には理と情の両面が求められるという話を聞いたことがある。理というのは校長の言っていることは間違いない、今求められるというのはそういうことだと理の部分で教職員を説得できる力である。次に情というのは、校長のためなら頑張らなければならないと思わせる力であり、この両面の資質が求められるということである。機会があれば校長、教頭へ伝えていただきたい。

(大山委員)

結局、課題は去年も今年も同じであり、このままでは来年も同じ状況となる可能性が高い。小学校では良い取組を行っている学校の割合は高いが、中学校では何校ぐらいあるのか。

(齊藤総括指導主事)

成果がでており、改善の参考として皆へ周知したい学校は2校である。

(大山委員)

その場合、課題校への指導等が異なってくるので、細かく学校ごとの指導方法を考えていかなければならないと思う。中学校の課題を1つでも2つでも解決していかなければ状況が厳しくなるため、大変だと思うがよろしく願いたい。

(本川教育指導参事)

小学校においては制度上、〇〇検定など学校全体で取りかかる施策を取り入れやすいというのは事実である。中学校では、教職員間が上手く機能していないのが課題の1つだと思われる。今後は40校個別に今回協議していったものを定期的に確認していきたいと考えている。

(小出委員)

学力向上には、子どもが勉強に取り組むモチベーションが大事かと思っている。子どもたちが理解し楽しめる授業改善というのは、今後も必要になるのかと思うが、何のために勉強しているかというのを子どもたちがちゃんと考えて授業に向かえるよう、ジョブカフェやキャリアシンポジウム等自分の将来について考える良い機会があるので、その点を結びつけて先生たちとも思いを共有し、授業に取り組んでもらえたら良いと思う。

(齊藤総括指導主事)

現在二次訪問が始まっており、私も学校を訪問しているところであるが、一番大事なことは子どもたちが学ぶ意欲を持って取り組んでいるかという点であり、教材との出会わせ方や課題の渡し方等が非常に重要になってくると思う。子どもたちがしっかりと振り返りを行い、自分自身の学びがどうであったかということを自覚させることが大事であるため、指導主事からの指導助言においては適宜行うことを共通化していることから、今後も継続していきたい。

(本川教育指導参事)

先ほど報告した「中学校数学放課後オンライン学習会」には数学を苦手としている生徒が多く参加している。学習会は30分であるが、最初の問題では大半の生徒が理解していない状況であり、都度理解度についてチャット機能を使用し確認をしているが、終盤には理解したという回答が並んでいる。学習会の序盤と終盤では生徒の表情も明らかに異なり、学習意欲に繋がるのは成就感であると改めて感じたところである。また先日春採中学校に視学官が来訪され授業を行った際にも、学習が苦手な生徒が正解した瞬間に表情が変わり、自分もできたという気持ちが見ていて伝わってくる場面があった。そういったところの授業改善、子どもたちができたという実感を持たせる授業を、もっと具体的な部分で指導していきたいと考えている。

【公開案件】報告事項

(3) 鉧路市PTA連合会への補助金交付決定について

(大島学校指導課長)

報告事項3、鉧路市PTA連合会への補助金交付決定について報告する。

鉧路市PTA連合会に対する補助金については、5月8日に開催された定期総会にて、会費の算出方法などに意見が出たことから、令和7年度一般会計予算（案）の議決がされていないことを鑑みて、補助金の交付は行っていない状況にあった。この間、教育委員会としては、鉧路市PTA連合会と打合せの場などを持つ中で、書面などでの各学校単位PTAから同意を求めること助言してきており、特に総会時に意見が出ていた学校に対しては、個別に相談・説明の機会を設けるなど、より丁寧な対応をお願いしてきたところである。

鉧路市PTA連合会では、各単位PTAに対し、総会で意見があった会費の算出方法の説明と修正予算案について通知文を7月に発出し、更には10月に、鉧路市PTA連合会への加入に関して、各単位PTAの意思確認を令和8年度から行うこととするガイドラインの改定とあわせて、令和7年度一般会計予算（案）に対して総会の書面開催を通知したところである。結果、各単位PTAからは、承認を得ることができたことから、教育委員会としては客観的に合意形成がとれたと判断し、補助金の交付決定を24日に行ったところである。引き続き、子どもたちの健やかな成長のために、鉧路市PTA連合会に対して必要な支援や助言を行うなど、連携を図ってまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(4) 学びの多様化学校保護者説明会の実施報告及び入学・転入学に向けてのスケジュールについて

(大島学校指導課長)

報告事項４、学びの多様化学校保護者説明会の実施報告及び入学・転入学に向けてのスケジュールについて報告する。

１０月４日土曜日と８日木曜日に、まなぼっととコア鳥取を会場に保護者説明会を開催した。まなぼっとは７０名、コア鳥取は３２名、計１０２名の方に参加いただいた。世帯数は５２世帯となる。また、参考資料にある学年別児童生徒数のうち、来年度の開校時に対象となる小学校６年生から中学校２年生の児童生徒は４４名となっている。説明会では、体制や定員に関すること、転校後に通えなくなった時の対応などについて質問があり、それぞれ記載の通り回答した。説明会の内容は、市ホームページに動画形式で掲載しているほか、子どもの状況にかかわるものなど大勢の前で質問しづらい内容もあることが想像されることから、１０月１４日から個別の相談を受け付けているところである。

続いて、募集にあたっての今後のスケジュールである。１０月１４日から１２月２日の期間で募集を受け付けるとともに、先ほどの個別相談会も同期間で実施していく。申請の流れについては、各家庭からは在籍校に申請書と事前アンケートを提出いただき、在籍校から学校の意見書を添えて、教育委員会に提出していただくこととしている。その後、１２月１３日からは教育委員会面談を実施する。面談が終了したら入学・転入学審査会を開き、入学・転入学者を決定していく予定である。１月上旬には、決定通知書を申し込みのあった全家庭に送付し、新１年生については、１月下旬に他の学校と合わせて入学通知書を発送する。３月には入学・転入学者説明会を開催する予定であるが、この日程については、もう少し前倒しできないか検討しているところである。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

（５）学校の現状について

（本川教育指導参事）

報告事項５、学校の現状について報告する。

学力協議の概要については先ほど齊藤総括指導主事より報告があり、私からも説明させていただいた。残念ながら、教頭先生や参加された担当の教員の真剣度にも温度差が感じられたことは事実であり、また校長先生の関わり方にも同様に感じたところは非常に残念だと思ったと同時に、何か考えなくてはならないと改めて思った。今後はいわゆる感度の低い学校、管理職に対してどのようなアプローチが良いのかということ、更に探っていきたいと考えている。

先日、教頭試験を今年度受ける先生方の勉強会である「木曜会」というのがあり、例年に倣って岡部教育長が講話を行った。今年は事前に参加者から教育長への質問をとっておき、それに対して岡部教育長の回答を交えながら講和を約１時間、思いや考えを述べるという形式で進めて頂いた。私も拝聴させて頂いたが、教頭になろうとしている先生方の意識として

は多少疑問符が付くような質問があり、また少し残念だなと思うようなこともあった。これは、単にその先生だけの問題に留まらず、やはり年度当初の第1回目の定例校長会議で、いわゆる教育長の訓示といわれる今年度の教育行政方針のポイントであるとか、毎月のこの「信頼」を通して校長会議でいろいろと周知・啓発して知らせていること、その中から市としての教育課題や市教委の教育施策などを、校内で徹底がなされていないのではないかというのを非常に強く感じた一幕であった。これについても今後、校長会で言ったから伝わっているという認識ではなく、校長会議や教頭会議を通して校長先生や教頭先生の口から、更に先生方に必要なものは一般の先生を含めて全校体制で共通認識を持たなければ、釧路市としての同じ方向を向いていかないのではないかと改めて思ったので、このあたりの方法を少し変えていきたいと考えている。

放課後学習会については先ほど発言した通りであるが、オンライン指導といっても一方的な画面だとただ見ていくだけだが、先ほど申し上げた通りチャットを使い、〇〇中学校の〇〇さんどうですかと赤本指導主事が声をかけて、その生徒が答えるのを聞く、双方向なものを30分の中でかなりできるというのと、70～80人がリアルタイムで参加しているが、全員が自分の意思表示をする場面を2～4回と行うことによって、ただわかりましたと回答するだけでも自分の存在感を得るということは非常に効果的だったと思うので、これらの方法を毎日の授業の中で取り入れるように改めて学校に啓発していきたいと考えている。

今年度の教育講演会だが、当初2月7日と案内していたが、1週間遅らせて2月14日土曜日に実施することとした。講演の講師については、今年度から釧路市がふるさとキャリア教育に力を入れていることを先ほど申し上げた教育長の年頭の訓示以降進めている関係もあり、そのふるさとキャリア教育の第一人者と言われている方々の中の一人と評されている、文部科学省国立政策研究所教科調査官の長田徹先生という方を招聘して行う方向で最終的な調整に入っている。正式に決定した段階で、内容を含めて改めて教育委員にはご案内したいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

オンライン学習の件について前回の説明では、当該学校の先生方にも役割を持ってもらいながら関わっていくという説明を受けたが、子どもとの直接的な関わりに加えて、その当該学校の先生方にこれをきっかけに、自分の授業改善や何かの方向性を見いだしていく機会にしてほしいと思うので、そういう点にも力を入れて進めていただきたい。

(本川教育指導参事)

参加の現状としては、オンライン学習30分間をそれぞれが教室で端末を設置し、そこに担当の数学の先生や担任の先生が巡回する手法を取っている学校もあれば、1か所に集合し、その場でも先生とやり取りを行いながら進めている学校もあり、学校により異なるが全く関わっていない学校は無かったと認識している。ご指摘頂いた部分については更に深められる

よう考えてまいりたい。